



第119期 報告書

2022年4月1日～2023年3月31日

レイズネクスト株式会社

証券コード：6379

幅広い事業領域のプラントに対応するメンテナンスとエンジニアリングで事業の発展に貢献します

企業理念

産業インフラを支える。豊かな未来を拓く。

- 安全で安定的なプラントの操業を支え、人、暮らし、環境の未来に貢献します。
- メンテナンスとエンジニアリングによって、プラントおよび設備の最適化を実現します。
- 多様性・自主性を尊重し、従業員・パートナー企業の幸せを追求します。

長期ビジョン RAIZNEXT Group V-2032

変革の時代に、進化したプラントサービスを

- エネルギーに携わる企業としての社会的責任を全うし、カーボンニュートラル社会の実現に貢献します。
- 常に最新の技術を導入・洗練し、メンテナンス・エンジニアリングの両輪でパートナー企業と共に最大限の顧客価値を提供し続けます。
- 人々の暮らしを支えるプラントの安定稼働を守る柱であるというプライドを持ち、従業員がやりがいをもって働くことのできる会社を目指します。

行動指針

進取果敢

既存の枠組みに捉われず
新しい発想で積極的に
挑戦します。

誠心誠意

お客様によりそい
一つひとつの仕事に
心を込めて取り組みます。

共存共栄

関係する全ての人を尊重し
ステークホルダーとともに
発展します。

メンテナンス事業 —プラントを守る—

プラントの安定稼働には、日常の適切なメンテナンスが欠かせません。当社は、各種機器類、タンク、配管、計装・電気、回転機械、土木・建築など幅広い領域のメンテナンスに対応し、24時間365日、プラントの安全・安定稼働に貢献します。

お客様との密なコミュニケーション、深い現場理解に基づいて最適なメンテナンスを提案するほか、日常保全工事から定期修理工事までの一貫したサービス提供により、プラントの高品質化・コスト最適化ニーズにもお応えします。

【事業領域】



機器類



タンク



配管



計装・電気



回転機械



土木・建築

エンジニアリング事業 —プラントを最適化する—

新規プラントの建設はもとより、既存プラントの長寿命化や耐震性向上、能力増強を目的とした改造・改修工事を得意とする当社では、石油・石油化学をはじめ、一般化学、医薬、食品など、多様な業界のプラントエンジニアリングに対応します。

初期の事業化計画支援からEPC*業務、建設後の試運転、アフターフォローまで一貫して対応する体制を整えることで、お客様のよき相談相手として、多様なニーズに最適化された価値あるプラントを実現します。

*Engineering(設計)、Procurement(調達)、Construction(建設)

【事業領域】

石油精製
プラント石油化学
プラント化学
プラント再生可能
エネルギー

タンク



建築構造物

ごあいさつ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに第119期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)の事業の概況をご報告申し上げます。

何卒、ご高覧いただきたくお願い申し上げます。

代表取締役社長
社長執行役員

毛利照彦



■当期の経営成績の概況

当連結会計年度のわが国経済は、物価上昇の影響により一部に弱さが見られるものの、ウィズコロナの下での各種政策の効果もあり、個人消費や企業収益が改善し、景気は緩やかに持ち直しています。他方、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが国内景気を下押しするおそれと、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等のリスクが懸念される状況が続いております。

当社を取り巻く事業環境につきましては、石油業界では、ウクライナ侵攻に端を発した原油価格の高騰に加え、自動車の低燃費化を主要因とする構造的な需要の低下により精製能力の削減と稼働調整が行われており、製品需要は減少傾向が継続しています。また、石油化学や一般化学業界では、一部で需要回復の兆しは見られるものの、全般的には自動車生産量の低下や産業用途の製品需要の低迷などを背景に需要回復には至っておりません。

工事施工にかかわるステンレス鋼などの一部資材は、ウクライナ情勢の長期化により価格が高止まりしているものの、国内在庫が確保されており、当期も資材調達に大きな問題はありませんでした。ただし、ウクライナ情勢の長期化により、資材納期については引き続き注視する必要があります。

当社グループにおきましては、受注高は、メンテナンス分野では、前期よりも定期修理工事の工事量が増加したことにより、前期比で増加しました。また、エンジニアリング分野では、カーボンニュートラル関連の大型工事の受注がありましたが、複数の大型工事の受注があった前期(2022年3月期)からの反動減のため、前期比で減少しました。完成工事高は、メンテナンス分野では、受注高と同様に前期よりも定期修理工事の工事量が増加したことにより、前期比で増加しました。また、エンジニアリング分野では、前期に受注した大型工事の計上により、前期比で増加しました。

当社グループの連結の業績としましては、受注高1,388億49百万円(前期比1.7%減)、完成工事高1,400億61百万円(前期比7.9%増)、営業利益109億18百万円(前期比0.6%減)、経常利益112億43百万円(前期比0.2%減)、親会社株主に帰属する当期純利益77億41百万円(前期比0.1%減)となりました。

当社単体の業績につきましては、受注高1,313億8百万円(前期比0.7%減)、完成工事高1,323億22百万

円(前期比9.2%増)、営業利益99億56百万円(前期比1.3%減)、経常利益104億58百万円(前期比1.3%減)、当期純利益73億65百万円(前期比14.5%減)となりました。

■当期の財政状態の概況

当連結会計年度末の資産合計は、1,141億68百万円で前連結会計年度末より、133億86百万円増加しました。これは、現金及び預金が49億27百万円、受取手形、完成工事未収入金及び契約資産が73億95百万円、土地が12億29百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

当連結会計年度末の負債合計は、308億84百万円で前連結会計年度末より、94億46百万円増加しました。これは、未払法人税等が9億48百万円、未成工事受入金が5億12百万円それぞれ減少したものの、支払手形・工事未払金が49億20百万円、その他が48億88百万円、退職給付に係る負債が8億37百万円それぞれ増加したこと等によるものであります。

当連結会計年度末の純資産合計は、832億83百万円で前連結会計年度末より、39億40百万円増加しました。これは、退職給付に係る調整累計額が5億76百万円減少したものの、利益剰余金が45億99百万円増加したこと等によるものであります。

受注高の工事種類別内訳

(単位：百万円)

受注高	当連結会計年度 (2023年3月期)	前連結会計年度 (2022年3月期)	前期比	増減率
メンテナンス	93,196	90,167	3,028	3.4%
エンジニアリング	45,653	51,062	△5,409	△10.6%
エンジニアリング業	138,849	141,229	△2,380	△1.7%

完成工事高の工事種類別内訳

(単位：百万円)

完成工事高	当連結会計年度 (2023年3月期)	前連結会計年度 (2022年3月期)	前期比	増減率
メンテナンス	89,884	87,032	2,852	3.3%
エンジニアリング	50,067	42,679	7,387	17.3%
エンジニアリング業	139,952	129,711	10,240	7.9%
その他事業	109	121	△11	△9.8%
合計	140,061	129,832	10,228	7.9%

(注) その他事業は、不動産の賃貸、保険代理店業務などです。

株主還元

継続性および安定性を充分留意した配当を実施しております。

	1株当たり配当金	連結配当性向
第119期(2023年3月期)	72円	50.4%

■当期のキャッシュ・フローの概況

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ49億23百万円(前期比38.4%)増加し、177億58百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、100億69百万円となり、前連結会計年度に比べ10億87百万円の減少となりました。主な支出は、売上債権の増加額66億56百万円、法人税等の支払額44億47百万円、主な収入は、税金等調整前当期純利益114億8百万円によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、△18億80百万円となり、前連結会計年度に比べ3億44百万円の増加となりました。これは主に、有形及び無形固定資産の取得による支出19億10百万円によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、△32億81百万円となり、前連結会計年度に比べ4億32百万円の減少となりました。主な支出は、配当金の支払額31億40百万円によるものであります。

■今後の見通し

次期(2024年3月期)につきましては、新型コロナウイルスの5類への引き下げなどにより社会経済活動の正常化が進み、景気が持ち直していくことが期待されますが、反面、国内の消費者物価上昇の動向、ウクライナ情勢の長期化等による原材料価格や供給面への影



響などにより、引き続き不透明な状況が継続するものと考えております。

次期の連結業績予想につきましては、当期と同水準である受注高1,410億円、完成工事高1,410億円、営業利益103億円、経常利益106億円、親会社株主に帰属する当期純利益71億円を予想しております。引き続き、日常保全工事、定期修理工事、改修工事など従来のメンテナンス工事の受注拡大に加え、一般化学や電子材料などの高機能製品製造プラント、カーボンニュートラル関連の新規工事の受注確保に努め、現在遂行中の「第2次中期経営計画－RAIZNEXT SYNERGY POWER」(2021年度から2024年度まで)の達成を目指してまいります。

■利益配分に関する基本方針 および当期・次期の配当

当社グループの事業は、石油、石油化学、一般化学等のプラント関連のメンテナンス事業およびエンジニアリング事業を基盤としており、民間設備投資の増減に影響され易い受注産業に属しております。

事業の性格を踏まえ、経営環境の変化と今後の事業の展開に備えて企業体質の強化を図り、安定的な経営基盤を構築することが企業価値を増大させ、ひいては、株主の皆様、顧客、取引先、社員等の各関係者の将来的な利益を確保することに繋がるものであると認識しております。



この認識のもと、株主の皆様に対する利益配分に関しましては、経営の最重要課題と位置づけ、収益に対応した配当施策を実施すべきものと考え、配当の継続性および安定性という面にも充分留意し、40%以上の

連結配当性向を目標としております。

当期の期末配当につきましては、上記に基づき、通期の連結業績を総合的に勘案したうえで、1株当たり72円といたしました。

次期の配当につきましては、株主の皆様への利益還元機会を充実させ、株式を継続して保有していただくことを目的として、1株当たり中間配当30円、期末配当35円の年間65円を予定しております。

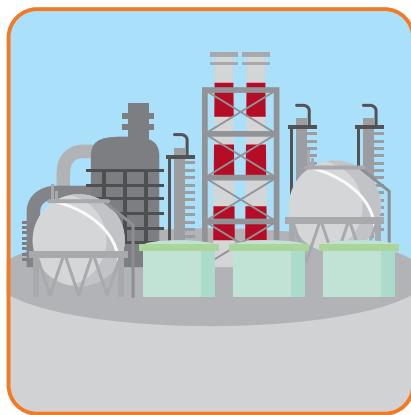
事業環境の変化に対応した当社の取り組み

カーボンニュートラル社会の実現に向けたエネルギー産業の変革は、当社にとって新たな事業創出の機会と捉え、積極的な取り組みを行っています。

1 閉鎖製油所の将来計画への参画

閉鎖製油所の基盤整備工事(無害化工事/設備撤去工事)を受注し、将来計画にも参画しています。

製油所閉鎖は、当社の新たなビジネスチャンス



製油所設備の無害化工事

装置／配管／タンク内に残存する
危険物の除去・清掃



設備撤去工事

設備の撤去および更地化



将来計画への参画

将来計画に基づいたFS*検討から
建設工事までの対応・受注へ

*Feasibility Study (事業の実現可能性や採算性の調査)

2 カーボンニュートラル社会への対応

当社の強みである太陽光発電所建設に加え、その他カーボンニュートラル案件も積極的な受注を目指しています。

- 太陽光発電所建設工事 ▶ 38件施工完了（累計約258MW）
2件施工中（合計約30MW）
- グリーンアンモニア製造プラントの
建設工事受注（福島県浪江町）



3 非鉄金属分野への対応

顧客との長期的取引関係を生かし、非鉄金属分野に積極的に参画しています。

- 電子材料工場建設工事の新規受注
- 各種電子材料のリサイクル設備の建設



当社が建設した工場にて製造された素材は、スマートフォンやEV車の重要な部品として使用されています。

全ての人にとって働きがいのある魅力的な職場環境の実現

働きがいのある魅力的な職場環境を目指し、役職、性別にとらわれず従業員の意見を取り入れ、新たな企業文化の醸成に取り組んでいます。

従業員エンゲージメントの向上による新たな企業文化の醸成

経営層と社員の意見交換会



新入社員との意見交換



女性社員との意見交換

従業員意識調査アンケート結果に基づく経営改善

2-3. 全体結果



職場環境の改善

フリーアドレス等の
新しい働き方



事業所の建て替え

工事現場にコンテナ式
快適トイレを設置



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度	前連結会計年度
	2023年3月31日現在	2022年3月31日現在
資 産 の 部		
流 動 資 産	90,427	78,379
固 定 資 産	23,740	22,401
有形固定資産	15,251	14,713
無形固定資産	1,874	1,251
投資その他の資産	6,615	6,435
資 産 合 計	114,168	100,781
負 債 の 部		
流 動 負 債	27,822	19,180
固 定 負 債	3,062	2,258
負 債 合 計	30,884	21,438
純資産の部		
株 主 資 本	80,158	75,659
資 本 金	2,754	2,754
資 本 剰 余 金	11,845	11,845
利 益 剰 余 金	65,660	61,060
自 己 株 式	△101	△0
その他の包括利益累計額	2,318	2,904
その他有価証券評価差額金	1,163	1,169
為替換算調整勘定	28	30
退職給付に係る調整累計額	1,126	1,703
非支配株主持分	806	778
純 資 産 合 計	83,283	79,342
負 債 ・ 純 資 産 合 計	114,168	100,781

連結損益計算書

(単位：百万円)

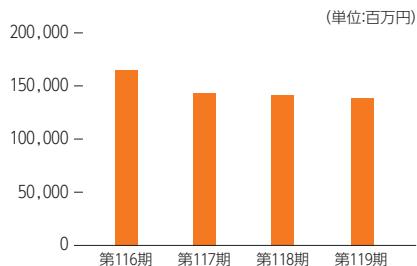
科 目	当連結会計年度	前連結会計年度
	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
完 成 工 事 高	140,061	129,832
完 成 工 事 原 価	122,006	112,084
完 成 工 事 総 利 益	18,055	17,748
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	7,136	6,765
営 業 利 益	10,918	10,982
営 業 外 収 益	357	399
営 業 外 費 用	32	112
経 常 利 益	11,243	11,270
特 別 利 益	173	200
特 別 損 失	8	153
税金等調整前当期純利益	11,408	11,316
法人税、住民税及び事業税	3,532	3,716
法人税等調整額	82	△212
非支配株主に帰属する当期純利益	52	64
親会社株主に帰属する当期純利益	7,741	7,748

連結キャッシュ・フロー計算書

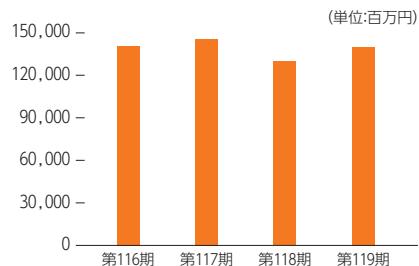
(単位：百万円)

科 目	当連結会計年度	前連結会計年度
	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,069	11,157
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,880	△2,225
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,281	△2,849
現金及び現金同等物に係る換算差額	16	66
現金及び現金同等物の増減額	4,923	6,148
現金及び現金同等物の期首残高	12,835	6,686
現金及び現金同等物の期末残高	17,758	12,835

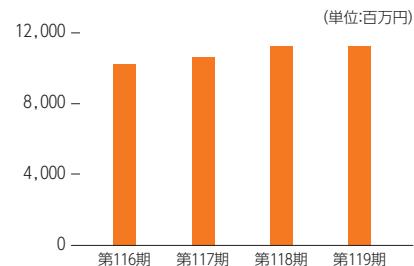
受注高



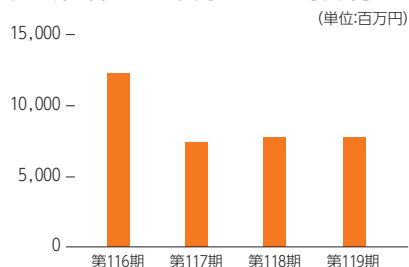
完成工事高



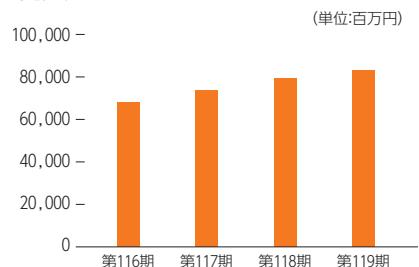
経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



純資産



総資産



(単位:百万円)

	第116期 2020年3月期	第117期 2021年3月期	第118期 2022年3月期	第119期 2023年3月期
受注高	165,404	143,095	141,229	138,849
完成工事高	140,578	145,914	129,832	140,061
経常利益	10,239	10,657	11,270	11,243
親会社株主に帰属する 当期純利益	12,258	7,344	7,748	7,741
純資産	67,819	73,890	79,342	83,283
総資産	99,348	97,121	100,781	114,168

概 要

- 商 号 レイズネクスト株式会社
RAIZNEXT Corporation
- 本社所在地 〒231-0062 横浜市中区桜木町一丁目1番地8
- お問合せ先 045-415-1111 (代表)
- 設 立 1938年(昭和13年)7月20日
- 資 本 金 2,754,473,003円
- 上場取引所 東京証券取引所 プライム市場
- 従 業 員 数 連結 2,083名 単体 1,616名

役 員 (2023年6月27日現在)

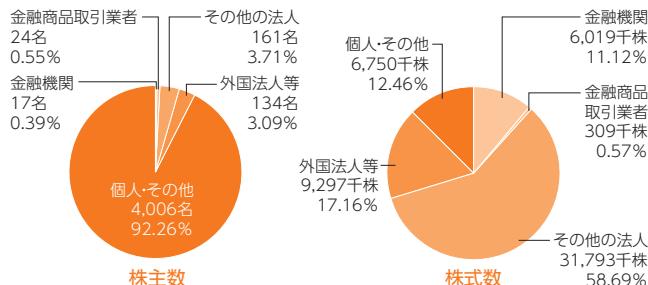
代表取締役会長	野 呂 隆
代表取締役社長 社長執行役員	毛 利 照 彦
取締役副社長 副社長執行役員	福 久 正 毅
取締役副社長 副社長執行役員	山 内 弘 人
取締役副社長 副社長執行役員	上 田 秀 樹
社外取締役	伊 佐 範 明
取締役 (監査等委員)	黒 澤 健 治
社外取締役 (監査等委員)	佐 分 紀 夫
社外取締役 (監査等委員)	水 地 啓 子
社外取締役 (監査等委員)	西 田 まゆみ

- 発行可能株式総数 160,000,000株
- 発行済株式総数 54,168,053株 (自己株式68,927株含む)
- 株 主 数 4,342名 (前期末比161名減)
- 大 株 主

株 主 名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
ENEOSホールディングス株式会社	11,658	21.55
株式会社UHPartners2	4,904	9.07
光 通 信 株 式 会 社	4,054	7.50
株 式 会 社 N I P P O	3,882	7.18
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,857	7.13
BBH FOR FIDELITY LOW-PRICED STOCK FUND (PRINCIPAL ALL SECTOR SUBPORTFOLIO)	3,135	5.80
株式会社UHPartners3	1,854	3.43
株 式 会 社 エ ス アイ エ ル	1,354	2.50
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	1,318	2.44
レイズネクスト取引先持株会	1,175	2.17

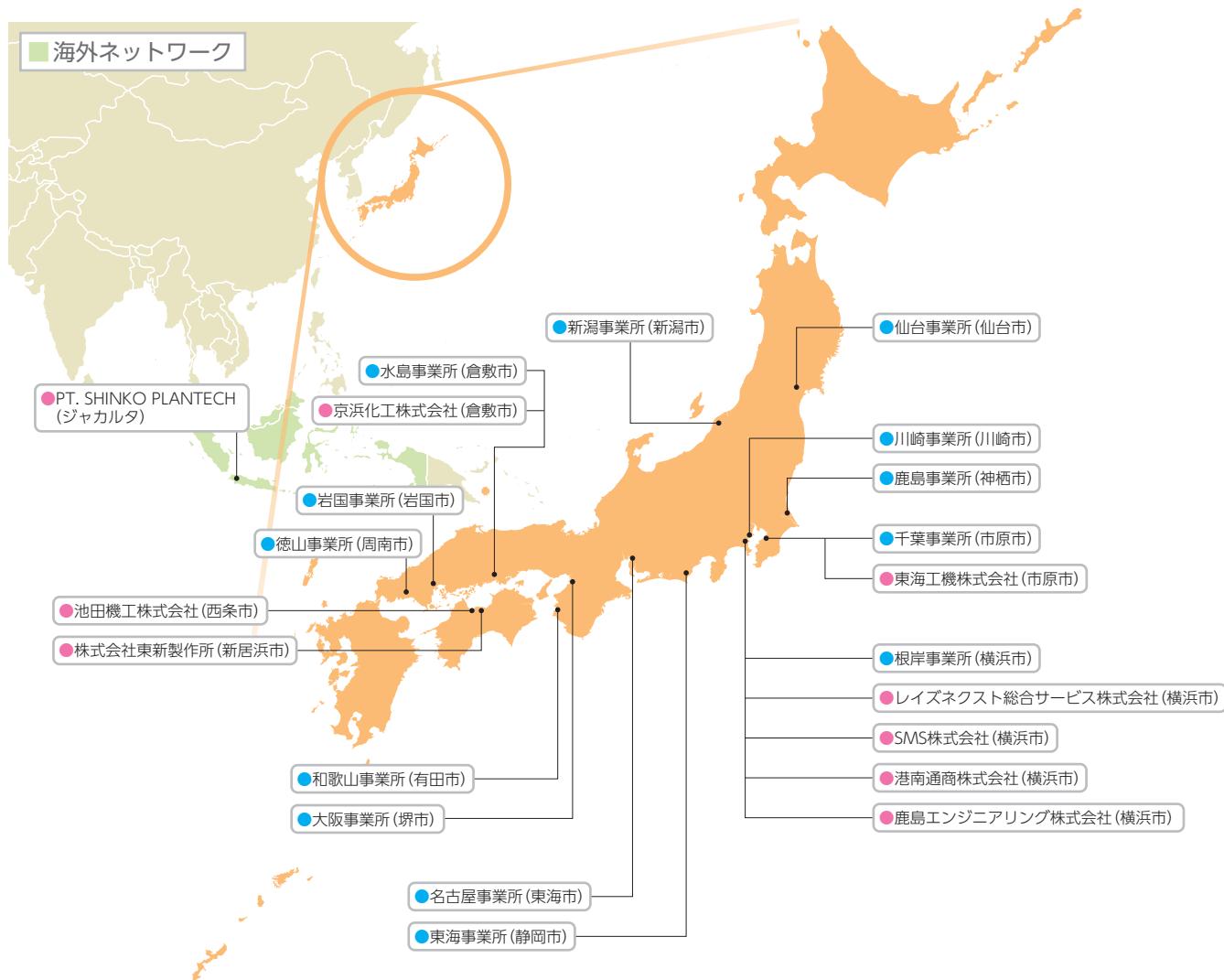
※持株比率は、自己株式(68,927株)を控除して計算しております。

● 所有株数別株式分布状況



事業拠点／関連会社

- 事業所 13カ所
- 子会社 9カ所



株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月中
基準日	定時株主総会については3月31日といたします。 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
配当金受領株主確定日	3月31日および中間配当を実施するときは9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区 丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区 丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 問合せ および郵便物送付先 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告の方法	電子公告といたします。 但し、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法といたします。
単元株式数	100株

Webサイトのご紹介

当社ウェブサイトでは、会社案内、事業紹介、株主・投資家情報など、各ページにおいて、当社に関する情報を掲載しております。ぜひご覧下さい。

レイズネクスト

検索

<https://www.raiznext.co.jp>

● トップページ



● 株主・投資家情報



最新のIR資料や、決算短信・決算説明資料・有価証券報告書等のより詳細な財務情報を掲載しております。

